



## アジアの法務・知的財産・国内外のM&Aが得意分野

私は今、大阪北浜と東京丸の内にも事務所を構える「弁護士法人 淀屋橋・山上合同」で弁護士として働いています。当事務所は合計約60名の弁護士が在籍しており、事務所全体としては多岐に渡る分野を取り扱っていますが、私の主な取扱い分野は、アジア法務、知的財産権、国内外のM&Aです。

例えば、アジアのM&A案件ですと、日本企業がシンガポール市場に進出するために、シンガポール企業を買収しようとする際に、シンガポール企業に対する調査をシンガポール現地弁護士と一緒に実施します。言語の違いはもちろんのこと、日本とシンガポールの法制度の違い、文化の違いの橋渡しをするようなイメージです。知的財産権の案件ですと、例えば、ある企業が特許権を侵害する商品を製造、販売していることに対して特許権侵害訴訟を提起することもありますし、大手広告代理店が顧客先である関係で広告に関する知的財産権の権利処理に関するアドバイスすることもあります。

## 自分でも分からないう「弁護士を目指した理由」

私は小学生の頃から弁護士になりたいと考えていたのですが、親族に弁護士がいた訳でもありませんし、なぜ弁護士になろうと思ったのか、正直なところ記憶にありません。両親を含む親族の中で大

学卒もおらず、そもそも勉強をするという家系ではありませんでした。

そんな中なぜ突然、私が勉強の道に進むことになったのかは自分自身も良く分かりません。

両親に「勉強しなさい」と言われたことは一度もありませんし、その他も、ああしなさい、こうしなさいと言われた記憶もあまりありません。ただ、放任ということでもなく、私が興味を持つことはことごとく応援してくれたという感覚です。「勉強の道に進むことになったのも、単純に、私が勉強が好きだったからだ」と思います。普通の子であれば、その後ゲームをするために勉強をするという感じだと思いますが、私の場合は、両親に言われた訳でもなく、勝手に「50分勉強したら10分本を読んでもいい」というルールを自分で作って、本を読むために勉強をしていました。まあ、完全に気持ち悪い小学生ですね(笑)。

幸いにも司法試験もストレートで合格したのですが、勉強のコツとしては、難しい教科書や難しい問題を解くのに時間を使うのではなく、一番スタンダードなやさしい教科書を選んで、それをひたすら繰り返し読んで、普通レベルの問題をひたすら解くことかなと思います。どんな分野でもそうだと思いますが、基本が一番重要で、それがしっかりしていれば、たいしてのことには対応できるかと思えます。

## とにかくスピードを意識しお客様の不安を早く取り除く

他の弁護士さんとの違いを一言で言うと『スピード』です。仕事のクオリティは「評価」という作業が入るため、同じ仕事でも人によってそのクオリティに対する評価は変わりますが、スピードは時間という物差しがあるため、依頼者に訴求力のあるサービスだと考えています。一般的な質問がメールで来たら、翌日までに返信すればそれで良いと考える弁護士が多いように感じますが、私は、1日単

位ではなく1時間単位で返信のスピードを考えています。依頼者が期待している納期を半分に縮めることができれば、「おお、早い！」と体感してもらえるとと思っています。

何故なら弁護士に相談する場合は、何か分からないことを質問する、何か悩みがあることが前提、依頼者にとっては、「分からないう」「悩みがある」という状況はストレスですので、それをできるだけ早く取り除くことはとても大切なことであると信じているからです。

スピードを上げるために意識しているのは「来るかもしれない相談」のために予定を空けておくこと。予定表がガラガラだと不安になりますので、予定を入れたくなくとも、仕事のスピードを維持するためには、自分の時間に余裕を作っておく必要があります。「予定のない予定を入れる」という感覚を持つ必要があると思っています。

## 依頼者をサポートし背中を上手く押すのが弁護士の役割

弁護士の仕事は基本的に何かをサポートする業務ですので、自分自身のサポート自体がすごいという感覚をあまり持ったことはありません。感覚としていつも持っているのは「依頼者の後ろを歩いている」ということ。ややもすると、弁護士は目立っている、依頼者の前面に立って依頼者を引っ張っていくイメージが持たれているかもしれませんが、どんな案件でも主役は依頼者で、弁護士はそのサポート役であり、弁護士が目立ちすぎても、主役ぶってもいけないと思っています。依頼者を引っ張っていくことよりも、依頼者の背中をうまく押す作業の方がより重要だと思います。

## 振り込め詐欺の犯人に間違えられた新人時代

新人時代、初めて受任した刑事事件で、振り込め

詐欺で逮捕された大学生の息子さんのお母さんに電話して、息子さんが逮捕されたことを伝えたら、私自身が振り込め詐欺に間違われて、電話を切られたことは一生忘れられませんね(笑)。

当時は不安に思いながら電話をかけたのですが、その不安が電話の向こうのお母さんにも伝わったのだと思います。今、もし、当時の私に対して話せるのであれば「お前が不安に思ってたとうするねん。お母さんの方がよっぽど不安やろー」と言いたいですね。弁護士が依頼者と一緒に不安になつてしまつてはダメですよ。

## 世界中の弁護士と一緒に仕事をしたい！

弁護士5年目と6年目にアジアに留学に行きました。具体的には、シンガポール国立大学に1年間留学し、シンガポール、インドネシア、タイの現地法律事務所合計1年間勤務しました。留学の最後には、幸運にもシンガポールの司法試験に日本人2人目として合格できました。その関係で、今はシ

